石碑や記録が伝える過去の災害

昔の災害のことは、どんな資料から分かるかな。今の備えにどう生かすかな

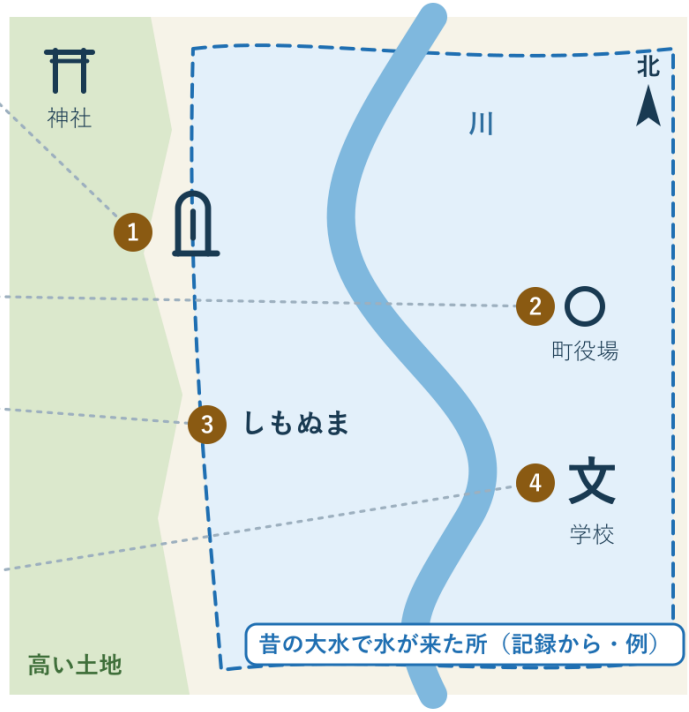
さざなみ町（架空の町）で、昔の大水を伝える資料

1 石碑（自然災害伝承碑）
昔の大水のことと、
水が来た高さが
きざまれている

2 町に残る記録
大雨で川があふれ、
家が水につかったと
書いてある

3 地名
「ぬま」など、水に
関わる字が付く地名
もある

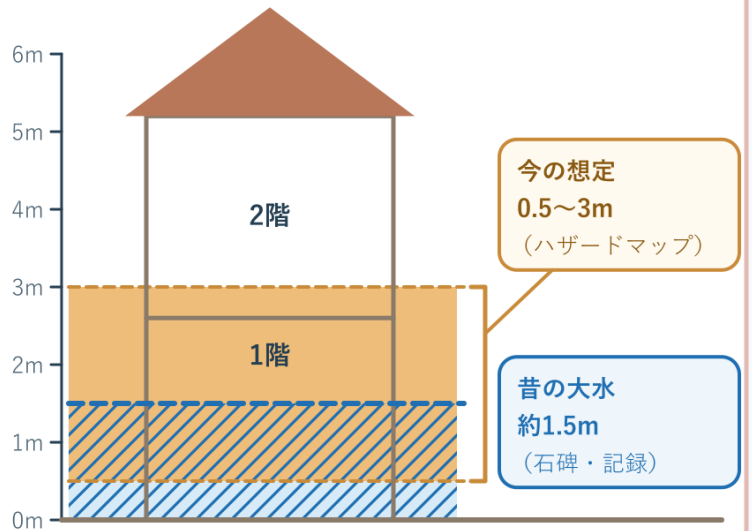
4 お年寄りの話
「子どものころ、
学校の前まで水が
来たよ」（聞き取り）



昔の水の高さと、今の想定をくらべる

ハザードマップの色：0.5m未満　0.5〜3m　3m以上

**昔の水の高さは、今の想定（0.5〜3m）の中にある。
本当にあったことと分かり、備えを考えやすい**



過去の災害を、今の備えに生かす

1 資料で、昔どこまで水が来たかを知る → 2 ハザードマップで、今の想定を確かめる → 3 にげる場所と道を、家族で決めておく

気をつけること
- 地名や1つの話だけで決めつけない
- いくつかの資料を合わせて確かめる
- 昔とちがって堤防などができた所もある

※ 模式図。町・資料・地名・水の高さは架空の例。家の大きさと高さは模式。